ASEAN グローバルプログラムに参加して

真　野　一　騎
Kazuki MANO
環境ソリューション工学科　２年

1. はじめに

ベトナムの首都ハノイとシンガポールに滞在して，日系企業訪問，現地企業訪問，ハノイ工業大学の学生との PBL，南洋理工大学訪問，シンガポールでのビジネスパーソンの講演と交流会を行った．プログラムの日程を表 1 に示す．

今回の学習目標として『海外での様々な経験を通じて事故を成長させる』，『グローバルに進展する社会・産業に関わっている日本企業，日本人技術者が果たしている役割を理解する』，『言語や文化が異なる様々な国や地域の人々とコミュニケーションをとり，理解を深め海外に対する意識を高める』などを掲げた．

表 1　日程表

8 月27日	ハノイ着，オリエンテーション
8 月28日	企業見学
8 月29日	ハノイ工業大学での PBL
8 月30日	PBL 発表
8 月31日	ベトナム観光，自由時間
9 月 1 日	シンガポール着，講演
9 月 2 日	南洋理工大学見学（講義，研究室）
9 月 3 日	企業訪問，ビジネスパーソンとの交流
9 月 4 日	自由時間
9 月 5 日	日本着

2. 参加目的

日本にいるだけでは自分の生きる範囲が狭いと感じており，日本を飛び出したいと常々思っていたところ，このプログラムの存在を知り，参加を決めた．今回のプログラムに参加した目的は 2 つあった．1 つ目は，現地で働いておられる方のお話を直接聞くことであった．将来的には海外で働きたいと思っており，現在ベトナムもシンガポールも経済成長が著しく，日本の社会に与える影響は年々増しているという話を聞き，一度現地を見ておきたかったからである．2 つ目は，異文化に触れることであった．日本で普段感じないことを体感できると思ったからであり，異文化に触れることで自分の中の世界を広げ，少しでも多角的に物事を捉えられるようになりたかったからである．

3. 研修内容

今回のプログラム期間中，様々なアクティビティがあり大変多くの刺激を受けた，その中でも PBL とビジネスパーソンとの交流の 2 つについて詳しく述べる．

PBL とは Problem Based Learning の略であり，実践の場での問題解決などが職業的スキルとして重要視され流教育課程でしばしば採用されると聞いていた．本プログラムでは，参加学生が 8 グループに分かれて「ベトナムで塩レモンキャンディーをより多く売るにはどうすればいいのか」を考えた．出国する 1 月前から瀬田キャンパスで数回の講義が行われ，そこでベトナムの経済や文化，またマーケティングについて学習し，各グループで仮説と事前質問を考えた．仮説は 1 つに絞らずいくつか考え，事前質問は詳しい内容の質問を作った．

ベトナムに到着し事前質問の回答と自分たちの仮説をすり合わせてからハノイ工業大学へ向かった．ハノイ工業大学では現地の学生がチームに加わり，英語によるコミュニケーションで会議が進められた．うまく英語を話すことができず，意思疎通することが大変で，大きな壁に感じた．ジェスチャーや図を描くことで英語力を補い，必死になって意見交換をした．その効果もあってか，日本で会議をしている時よりもみんな活気があり，多くの意見が飛び出した．現地の学生にアンケートをとる必要があっ

たが，チーム内のベトナム人学生は，授業を行なっているクラスに入っていき，先生の許可を得てその場で（授業中に）アンケートをとっていた．文化の違いを感じ，驚いた．日本では授業開始前などに行うなどして，極力授業の邪魔にならないようにすると思うので，まさに異文化だと感じた．

アンケートの結果で仮説を検証し，発表を行なった．まずハノイ工業大学にて英語でプレゼンを行なった．自分はチームを代表して自ら原稿を作成し，英語でスピーチした．緊張はしたが無事にやり終えてよかった．夜，ホテルに帰ってから，企業の方向けの発表を行なった．その際，「多くの情報を一枚の紙にまとめる力は現代の社会で大変重要な力である．」というお言葉をいただいた．他のグループのプレゼン時にも「ターゲットを絞る」「プレゼンに統一性を持たせる」などの的確なアドバイスを聞くことができ，この PBL で得たものは大きかったと思う．

若手ビジネスパーソンとの交流では，4 グループに分かれてそれぞれのグループに 1 人ずつビジネスパーソンがつく形で進められた．4 名の方から，それぞれ特徴のある話を聞くことができ，大変貴重な時間を過ごせたと感じた．どの方もまず質問から聞いてくださり，ただ聞くだけの時間ではなく話に参加し会話をする時間にしてくださった．学生からの質問は海外で働くことの大変さ，過去に経験してよかったと思える出来事，就活に向けて今何をするべきか，などが多かった．ビジネスパーソンの方からの回答の例としては，具体的な目標を持ちそこから逆算して今やるべきことを考える，もうすでにある仕事ではなく新しい職業に目を向ける，など，自分ひとりでは考えつかない考え方，価値観にたくさん触れることができた．個人一人ひとりの話にも親身になって聞いてくださり，個人的な内容についてもたくさんの話を聞けたのも大きな収穫だと思う．自分の話をする，相手の話に対して質問をする，このような積極さの重要性をより強く感じることができた．

4. おわりに

今回の ASEAN グローバルプログラムに参加して，感じたことは 2 つある．

1 つ目は自分の英語によるコミュニケーション力の低さである．ハノイ工業大学の学生との PBL の際にコミュニケーションは英語でしか取れない状況に置かれた．伝えたいことや聞きたいことをまず日本語で考え，それを英語に変換したが，この作業の大変さを身をもって体感した．ベトナム人の学生が一生懸命伝え，理解してくれたおかげでなんとかチームのプレゼンを成功させることができたが，自分や他の班員にもっと英語でコミュニケーションをとる力があれば，もっとスムーズかつハイクオリティなプレゼンができ，学びも多かったと思う．

2 つ目は積極的に行動することの大切さである．先に書いたように，様々な業界の方から多くの経験談を聞かせていただいたが，例えばその話についても，もっと多くの質問をすれば貴重なお話がより一層聞くことができたと思う．ただ，交流が終わった後に個人的に話をしていただく機会があったのだが，そのチャンスをモノにできるかできないかが，このプログラムを有意義なものにできるかどうかを決めると感じた．そこで，そこでは積極性がある人は果敢に話をしに行けた．このように，今回のプログラム内で梶田ことを即実践でき，とてもいい経験ができたと思っている．

このように今は，日常会話程度の英語力と積極性を手にすることが優秀でグローバルな人材になる一歩目なのではなかと考える．今後はこの二つを意識して大学生活を過ごしていきたい．